



ロータリー：
変化をもたらす



守口ロータリークラブ 週報 No.32



石井会員へ大野会長より花束贈呈

2017-18 RIテーマ

母子の健康月間

本日のピアノ演奏

1. 威風堂々 2. 365日の紙飛行機 3. どんなときも

**本日例会 2018年04月11日(水)
(第2754回)**

「知的障害者の支援」
障害者生活支援センター
所長：阿見 太津也様・倉狩 妙子様
担当：ロータリー財団委員会

**次回例会 2018年04月18日(水)
(第2755回)**

「日本の経済状況と守口の経済状況」
守口門真商工会議所
会頭 土居 正明様
担当：会員増強委員会

出席報告			
例会日	出席(名)	欠席(名)	出席率
04月04日	30 (内免除者1名)	13	69.77%【会員44名】
03月14日	31 (内免除者0名)		メイクアップ3名 (73.81%)



前回例会 (2753回) 4/4の主な内容

◎松本かおり会員に会長より
米山奨学生カウンセラーを委嘱

◎お誕生日お祝い
石井賢治会員 正木一光会員 廣瀬彰久会員
(石井会員へ95歳をお祝いして会長より花束贈呈をしました)



■ 会長：大野 智子	■ 例会場：ホテル・アゴラ大阪守口 守口市河原町10-5 TEL (06) 6994-1111 (代表) 〒570-0038
■ 幹事：井上 智裕	■ 事務所：守口市河原町10-5 ホテル・アゴラ大阪守口5F 〒570-0038 TEL (06) 6994-0010 FAX (06) 6994-0009
■ 広報雑誌・会報委員長：他谷 勝	■ メールアドレス：info@moriguchi-rc.jp
URL：http://www.moriguchi-rc.jp/	■ 例会日：毎週水曜日 12時30分~13時30分

◎会長の時間

(会長 大野 智子)



皆様今日は、きょうは月初めですので、今月のテーマ「母子の健康月間」についてお話させていただきます。ロータリーでは、母子を助けると言う、母子健康、妊産婦や子供達の改善に努めております。世界では、現在栄養失調や、不十分な、医療、衛生が原因で、毎年5歳未満の子供達が、590万人亡くなっておりまして、2010年1200万人の所、現在では、590万人減少しています。サハラ以南、アフリカでは39人に一人の女性が妊娠中又は、お産で亡くなっております。

このような命を救うため、ロータリーでは、母子や子供達が、基本的医療を、利用する様に支援活動をしております。

具体的目標としまして

- (1) 5歳未満の子供の死亡率の削減
- (2) 妊婦死亡率の削減
- (3) 母子の為の基本的医療サービスを受けた医療従事者を利用する
- (4) 母子の健康に関する研究の支援

2014年10月 R I 理事会では4月を「母子と健康月間」と定めて、より多くの、母子に医療サービスの提供、保険従事者を対象として、研修、ケアの提供、母子健康に関連した仕事に従事する事を目標とし、専門の職業人のための、奨学金を支給しています。

少しでも母子の健康が改善され、子供達の命を救うためにも、我々ロータリアンはもっと関心を持つべきだと思っております。



◎幹事報告 (幹事 井上智裕)

1. I.M第3組フレッシュロータリアン研修・交流会
ご出席のお願い

開催日：2018年5月12日(土) 17:30~20:30

場所：ホテルアゴーラ・大阪守口

2、4月7日(土) 2018~2019年度地区研修・協議会のご出席のお願い



ニコニコBOX S・A・A

◆◆◆委員会報告◆◆◆

●親睦活動委員会 (中道委員長)

○日帰り家族親睦旅行のご案内

日 程：4月14日(土)

場 所：近江牛「岡喜本店」と琵琶湖沖島めぐり

参加費：会員：15,000円 ご家族=10,000円

●職業奉仕委員会 (石橋委員長)

守口市広報に出前授業の写真が掲載されました。

◆◆◆第10回理事会だより◆◆◆

日時：4月4日(水) 13:40~

場所：「事務局」出席：10名

議題：ホームページの件

・在籍表彰の件



- 石井 会員 センバツ高校野球大会から、沢山の感動を与えられました。
- 松本 会員 はじめてのニコニコ袋です。うれしくおもいます。
- 中道 会員 4月14日日帰り旅行宜しくお祈りします。
- 三宅 会員 博多先生からの強い薬のお陰で熱と痛みから解放されました。(でも効きすぎて少々フラフラしています。)
- 大野 会員 先月、枚方カントリーでのゴルフ同好会に多数ご参加頂きまして有難うございました。
- 松尾 会員 卓話させてもらいます。宜しくお願いします。
- 山本 会員 先週の例会、欠席させて頂き申し訳ございませんでした。

4/4 誕生・ニコニコBOX 987,000円

四つのテスト

●言行はこれに照らしてから ①真実かどうか ②みんなに公平か ③好意と友情を深めるか ④みんなのためになるかどうか

卓 話

松尾 安彦会員



「薬物乱用の現状」
「違法薬物撲滅を目指して」DVD放映
・・・国際ロータリー2660地区制作

私は、保健所、学校より要請があれば講師として行っております。薬物の話の前には必ず、最初にお話するのが、
1、1回だけ試してみる。
2、冗談で吸ってみる。
3、仲間にあおられて。
4、私は意思が強いから。大丈夫等と、

最初はそういう事から始まる。「吸ったその日からあなたの一生はダメになる」、吸ったその時から頭が覚えています。そして治療では治らない。中毒になる。

「薬物乱用は病気ではない、中毒症で、治す薬がない」。私は保護司をさせて頂いて、20数年になります。4~5年前は私が担当する対象者(犯罪者)は全て薬物を吸った人で年齢は10代から40代でした。

10代後半の対象者で、最悪のパターンの例があります。この対象者はたしか3回担当したと思います。薬物は吸っていなかったのですが、盗難車を買って酒を飲んで酔っ払って、40代の働き盛りの男性をひき逃げをした。当然、保険は降りない、被害者から家に毎日電話が掛かる、家に押し寄せる、その挙句、父親は自殺したと言う例もあります。

最後に必ず話をします。薬物中毒であった女性が刑期を終えて、結婚し、子供も授かり、幸福な生活を送っていた。ある日家で天ぷらを揚げていた時に「キャー」と言う悲鳴で主人が駆けつけると「手から無数の虫が出てきた」と言ってとっさに、煮えたぎった天ぷらの油に両手を突っ込んだと言う有名な話です。これが「フラッシュバッグ」です。

